

機関拠点型基幹研究プロジェクト  
大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出

大衆文化プロジェクト現代班研究会③  
教育分科会

日程: 2017年7月9日(日)      13:00 受付      13:30 開始

会場: 国際日本文化研究センター      第1共同研究室

プログラム

13:30→4:30 松苗あけみ(漫画家)「少女まんがにとって色彩とはなにか」

聞き手:大塚英志

14:30→15:30 質疑

15:30→15:40 休憩

15:40→16:40 山本忠宏(神戸芸術工科大学助教)「まんが表現における色の統辞法と基礎的問題」

16:40→17:00 コメント 谷口恵太(カラリスト)

17:00→17:30 質疑

現代班は海外ワークショップを通して、まんが文法の国際間の比較を踏まえた実践と教育カリキュラム化を行なっていましたが、今までの「コマ」の接続による演出に「色彩」という要素が加わった場合の「色の統辞法」の理論化を開始しています。

今回は少女まんが家の松苗あけみ先生をゲストスピーカーに迎えます。大塚が協力する2019年開催の「ミュシャと少女まんが展」での中核的な展示作家の1人となります。

ヒヤリング形式でお話を伺いたく思います。

山本忠宏氏はアングレームで行なったBDカラリスト(フランス漫画における着色の専門職)でのヒヤリングを踏まえ、まんが表現における色彩の文法の理論化について、まんが創作の教員の視点から報告します。アングレーム在住で、現地のまんが教育の専門学校の教員で、カラリストでもある谷口恵太氏が、彼のカラリングの方法をコメントを兼ねプレゼンします。